

日本原子力学会核燃料部会

平成17年第三回運営委員会議事録

日時 : 平成17年9月14日(水)10:00-12:00

場所 : 八戸工業大学 本館307号室

出席者 : (順不同 敬称略)

山脇部会長、山本副部会長、安部田委員、伊東委員、大澤委員、大沢委員、来山委員、杉崎委員、若松委員、林委員、平井委員、天谷氏(更田委員代理)、藤田(千)委員、仙藤氏(藤田(元)委員代理)、米田委員、木原委員、森山委員、木下委員、佐藤委員、寺井委員、三島氏(JNFL/説明補助)、安部氏(コベルコ科研/オフサーハ)

議事

1. 運営委員の変更

・資料1にてジルコプロダクツの萩委員から若松委員への変更が報告され、了承された。
また、運営委員会名簿において山脇部会長の勤務先、連絡先をJNESに変更することとなった。

2. 2006年春の年会での企画セッションについて

・資料2に基づき森山委員から報告された。

・山脇部会長より、2004年度までは日本、韓国、中国の3か国で行なっていたが、2005年度は日、韓の2か国となった理由および2006年度をどうするかの説明があった。

→2004年度までは原子力学会の国際協力基金から資金面のサポートがあったことから3か国参加で実施してきたが、2005年度からはそのサポートがなくなり各部会の手持ち資金で賄うことになったため、今年度は日、韓の2か国のみとなった。日、韓の場合は秋に韓国原子力学会でセッションを行ない日本側が招待を受け、春には日本側で開催し韓国側を招待するという形で相互に旅費負担をしている。2006年度については、できれば中国側にも参加してもらいたいと思うが、費用については中国側に自前を出してもらわざるを得ない。10月に京都での国際会議に中国も参加するので、その時に中国側に申し入れる。ただし、セッションは核燃料部会、材料部会、核融合工学部会3部会の共催なので事前調整が必要である。

・2006年度の対応について、事前調整および中国側との調整を森山委員にお願いした。

3. 前回運営委員会の議事録案確認

・若松委員より資料3に基づき前回運営委員会議事録案が報告され了承された。

4. 総会配布資料の確認

若松委員より資料4に基づき総会配布資料が報告された。

次の点を修正、追記することになった。

・日韓夏期セミナー: 主催、共催が変更になっているので訂正する。

(正) 主催: 日本原子力学会, 韓国原子力学会

共催: 核燃料部会, 材料部会, 核融合工学部会

・今後の活動計画に次の講演会を追記する。

Prof. Olander “Research of hydride fuel as replacement for oxides in LWRs”, 他

主催: 「原子力分野における水素化物の利用」研究専門委員会

共催: 日本原子力学会, 核燃料部会, 材料部会

平成17年9月30日(於:丸ビルコンファレンススクエアRoom2)

5. 水炉燃料国際会議準備進捗状況報告

林委員から資料5に基づき報告され了承された。

(ア) 10月2日～10月6日 京都テルサ

(イ) 論文はオーラル41件、ポスター67件の計108件。

(ウ) 時間スケジュールは以下のとおり。10月2日夕刻にRegistrationとWelcome Party、10月3日午前にPlenary Session、10月3日午後から10月6日午前までTechnical Session。また、10月3日夜に新-都ホテルにてOpening Reception。

(エ) PR用ブースを1ヶ所設ける。

(オ) Program Committee Chairは山脇部会長、General Chairsに日、韓、中、欧、米から一人ずつ(計5名/5学会共催)。

(カ) セッションチェア-の皆さんには了解をとっているが、セッション6-2のロシアのグレゴリー氏からの受諾連絡がきていない。(→木下委員にて確認をとる)

(キ) オーラルプレゼンターには紹介用の略歴をセッションチェア-に連絡するよう依頼している。

6. 運営委員担当協議

若松委員から資料6に基づき、2006年度の業務分担で担当委員が不明確や未定のものがあるので担当を明確にするための提案があった。

協議の結果、次のように対応することになった。

(ア) 庶務幹事：2002年3月29日の運営委員会の決定事項として中部電力殿が担当となっているが、中部電力殿は運営委員会へ参加実績がないため2006年度に担当できるのかとの問題提起あり。

→(決定事項)・2005年度庶務幹事から松井委員に連絡をとり、松井委員にて中部電力殿へ2006年度の庶務幹事受諾と本年下期の運営委員会から出席するよう要請していただく。中部電力殿が受諾されない場合は、電力幹事会社の関西電力殿にて対応を調整していただく。

(イ) 広報HP担当：NFI殿に決定(注：2005年10月より)。

(ウ) 国際活動：電中研殿と原研殿に決定。ただし、原研殿は持ち帰り検討することとなった。

(エ) 評議員：山本副部会長、森山委員に決定。

(オ) 部会等運営委員：山本副部会長に決定。

7. 部会報進捗状況報告

藤田委員(原電)から資料7と参考資料に基づき、部会報第41-1号の発行予定と、第41-2の進捗状況と今後の予定について報告があった。

(ア) 第41-1号について

・9月19日の週には学会事務局へ送って、核燃料部会会員に発行できるよう手配する。

・予算の関係上、発行はPDFファイルの電子メールでの配信とする。ただし、メーリングリスト未登録の会員には郵送とする。

(イ) 第41-2号について

・執筆予定者が未定の項目については次のように決定した。

「巻頭言」：執筆予定者継続検討。

「後輩に物申す」：石野先生に依頼。

「会員消息」：三宅千枝先生に依頼。

「会員の声」：原研等の若手研究者に山脇部会長より打診。

(ワ)部会のメーリングリスト管理および部会報公開方法に関連して問題提起があった。

(ウ-1)メーリングリスト関係

- ① 新規会員および退会者については学会事務局から部会担当委員へ連絡があるが、既会員については、メールアドレス変更を学会事務局に連絡しても事務局から部会担当委員への連絡がなされないため、部会のメーリングリストに反映されないという問題がある。
- ② 会報の部会員へのメールは学会事務局が行なうが、アドレス不明で多くのメールが帰ってくるのが現状である。どこ行きのメールが帰ってきたかは学会事務局にしかわからず、かつ、部会への連絡はこないため部会ではメール送付できなかった会員の把握ができないという問題がある。

(ウ-2)部会報公開方法に関して

・部会報をHPに載せることで、送付することの代わりにできないかとの提案があった。

・HPに載せるのは部会員以外にも公開することになるがそれでもよいのか、あるいは部会員のみが見ることができるようにHP上で操作ができないかといった議論になった。

(ウ-3)

上述問題に対し、広報担当委員およびNFI殿委員(2006年度HP担当)にて検討の上、学会事務局とも調整していくこととなった。

8. 平成17年度夏期セミナー報告

安部田委員より資料8-1, 8-2, 8-3, 8-4に基づき、平成17年度夏期セミナーの実施報告、参加者へのアンケート結果および収支報告がなされた。

- ・ 実施期間：平成17年7月7日～9日
- ・ 場所：鳥海温泉「遊楽里」
- ・ 参加者：73名(内、参加費支払いは70名)
- ・ 事務局：東北大学, 三菱重工業
- ・ 収支報告：収入 1,682,532円
支出 1,682,532円(内、179,898円は残金として部会へ振り込む)

9. 平成18年度夏期セミナー報告

米田委員および三島氏(JNFL)から資料9に基づき、開催日(7月7日～9日)、開催場所(熊本県阿蘇温泉または石川県和倉温泉)、視察先候補、アクセス案等が提案された。

協議の結果、場所は阿蘇温泉で、提案された期間で行なうことに決定した。

なお、九州での開催となるので視察場所を含め九州電力殿に相談し協力をあおぐこととなった。

10. 日韓夏期セミナー報告

山本副部長により資料10に基づき、日韓夏期セミナーの実施報告がなされた。

- ・ 実施期間：2005年8月1日～3日
- ・ 場所：韓国 釜山 東義大学(国際館)
- ・ 参加者：日本側 98人(内、学生48人)
韓国側 83人(内、学生43人)
- ・ Plenary Session: 材料部会関係3件, 核燃料部会関係3件, 核融合部会2件
山脇部会長より”Status of Light Water Reactor Fuel Development in Japan”
と題して講演。
- ・ 発表講演数：核燃料部会 日本側 4件, 韓国側 5件

材料部会 日本側 4件, 韓国側 2件

核融合部会 日本側10件, 韓国側 6件

なお、次回の部会報に詳細を載せる予定である。

また、京都大学小西先生より教科書を400部刷る費用として京都大学より100,000円出すが、不足するので核燃料部会と材料部会で各々30,000円補助をだしてもらえないかとの依頼があったとのことで、協議の結果、核燃料部会として30,000円の補助をだすこととした。

11. 学会誌記事提案についての回答

山本副部長より資料11にて、学会編集事務局から問い合わせのあった「学会誌 記事提案についてのご回答のお願い」についての回答案の提案がなされた。編集委員について更田委員の名前で提出することとし、他の項目については提案資料通り提出することとなった。

12. その他

①先進材料についての研究専門委員会の立ち上げについて

山協部会長から、材料部会長より先進材料に関して共同で研究専門委員会を立ち上げる提案を受けたことの紹介があった。核燃料部会としても賛同することとし、平井委員、他数名の方に準備委員として活動していただくことになった。

②次回運営委員会開催日時

2005年12月1日(木) 13:30~15:30

場所は、原子力学会会議室

以上

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

[もどる](#)